



宝永小だより

No.8

福井市宝永小学校

令和8年7月7日

学校教育目標：ひとり立ちできる子 ～心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成～
めざす児童像：進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

地域の皆様の力をお借りして、「生きた」「本物の」体験をしています。

今年度も、地域の皆様にゲストティーチャーや授業ボランティアとして本校の教育活動にお力添えをいただき、大変お世話になっています。下記のクラブ活動をはじめ、様々な活動で、それぞれの専門家の皆様から、子どもたちは多くのことを学ばせていただいています。その道の専門家が語る言葉は、「生きた」「本物の」体験や情報として子どもたちに受け止められています。教員にはない専門知識・技能が、子どもたちの関心や意欲を喚起し、キャリア教育にも繋がります。

本校では、多くの地域の皆様に支えていただき、感謝するばかりです。これからも、地域の皆様の力をお借りした授業を織り交ぜながら、「ひとり立ちできる宝永っ子」の成長を目指していきます。

4・5・6年生 クラブ活動を楽しむ

5月26日(月)から、今年度のクラブ活動が始まりました。クラブ活動は、子どもたちの興味・関心をもとに所属を決めています。今年度は、茶道、自然・宇宙、囲碁、アート、生け花、家庭科、バドミントン、卓球、バスケットボールの9つのクラブ活動を、毎月1回、月曜日の6校時に実施します。どのクラブ活動でも、初回から、子どもたちは熱心に取り組み、楽しんでいました。

今年度のクラブ活動も、知識や技術をお持ちの地域の皆様にご協力いただき、実施することができています。クラブ活動を通して、異学年の子どもたちが協力し合いながら、さらに興味・関心を広げ、進んで学び合える子が育ってくれることを期待しています。ご指導くださる皆様、どうぞよろしくお願いします。



△生け花▽



△茶道▽



△アート▽



△囲碁▽



△自然・宇宙▽



△家庭科▽



△バドミントン▽



△バスケットボール▽



△卓球▽

＊今年度より、「家庭科」を新設しました。簡単な調理、裁縫などに取り組んでいます。

「読書タイム」で心豊かに

子どもたちが本に親しみ、進んで本を読むとする態度を育てるために、毎週金曜日と朝礼・集会のない木曜日の宝永っ子タイムの時間に「読書タイム」を設けています。読書の習慣を身に付けたり、「どらごんぶっくす」の皆様による読み聞かせを行ったりしています。また、「これきひょうしぎの会」の池田武 様が、1・2年生に紙芝居をしてくださっています。子どもたちは、毎回、目を輝かせ、集中して読み聞かせや紙芝居の世界に入り込んでいます。

読書は、作者が描く世界を疑似体験し、自分の生活や考えなどに照らし合わせて思いや考えを深めることで心が豊かになります。メディア社会の今だからこそ、読書を大事にしてほしいと思います。



＜池田様の紙芝居＞



＜「どらごんぶっくす」の皆様の読み聞かせ：低学年と高学年に分けて、月2回お越しいただいています＞



4年生 車いすユーザーから話を聴く 6月3日(水)

子どもの頃から車いすを使って生活をされておられる自主生活センターコム・サポートプロジェクトの ○○○○ 様に来校いただき、日常生活の様子を語っていただきました。ゲストティーチャーから「福井県には車いすを使って生活している人が1万人以上いて、私は普段から一人暮らしをしています」と話を伺うと、子どもたちからは驚きの声が上がりました。そして、趣味はモルックであることも教えていただきました。また、家の中にはスロープが所々にあったり、トイレや風呂には手すりがあったりして、一人で生活できるための造りになっていることも紹介されました。さらに、車いすには3種類あり、外用・内用・飛行機用を使い分けていることも教わりました。加えて、指や腕だけを使って運転できる車に乗っているが、雪が5cm以上降ったら車いすで移動ができないため、仕事場に行けないこともあるなどの苦労話も伺いました。子どもたちは車いすを使って生活をしている方が日常生活を送ることの大変さに改めて気づき、その一方で、いろいろな苦労を乗り越えて懸命に生活していることに感心していました。



＜車いすユーザーが語る様子＞

＜4年児童の感想＞車いすの方のお話を聞いて、車いすの方は私たちと少しちがう生活をしていることを知りました。車いすの方もテニスやモルックなど、いろいろなスポーツができることを知りました。昔より今は、車いすの人も住みやすい環境になっているのはよかったです。

4年生 車いすを体験する 6月3日(水)

福井市社会福祉協議会の方をお招きして、車いす体験学習を行いました。子どもたちは、車いすの使い方を学んだ後、3～4人1組になり、介助する側とされる側を体験しました。まずは、児童玄関の目皿の上で、車いすの両側(座面シートの両端)を両手で持ち、真ん中を押して下げるようにして、車いすを完全に広げることからスタートしました。子どもたちは車いすを広げることが初めてのため、うまく広げられないことに戸惑っていました。その後、介助する側の子どもは、①ブレーキの確認：乗り降りする前に、左右両方の駐車ブレーキを確実にかけ、車椅子が動かないことを前後に揺らして確認します、②足元の準備：乗る人が足を置きやすいよう、フットサポート(足置き)を跳ね上げておきました。介助される側の子どもは、①アームサポート(肘掛け)などを両手で支え、ゆっくりと深く腰掛け、②座ったら足置きに足を乗せました。車いすのブレーキをはずして、移動を始めました。介助する側の子どもは「動きます」「段差があります」などと、声をかけてから動かししました。第1関門は、車いすで児童玄関の段差を上りました。介助する側の子どもが足でティッピングレバーを踏み、ハンドルを手前に引いて前輪を浮かせて乗り越えるのですが、大変難しかったようです。第2関門では体育館トイレの手洗い場と多目的トイレの手洗い場とを比較して、使いやすさの違いを実感できました。さらに、第3関門の体育館玄関では、介助する側の子どもが段差を下りる時の介助の仕方を体験し、「後ろ向き」で後輪からゆっくり下ろしました。子どもたちは役割を交代しながら体験を繰り返し、少しずつ上手になっていきました。



＜段差を上がる介助に挑戦する＞

＜4年児童の感想＞車いすに乗って段差を下るときに、ガッタンとなりビックリして、かいごはとても大変だということがわかりました。かいごするときは、さいしょにあいさつをして、いろんなことをするときも話しかけないとだめだということがわかりました。

4年生 弱視者の方から話を聴く 6月9日(火)

福井県立盲学校の ○○○○ 先生をゲストティーチャーにお招きして、目の不自由な方について学びました。ゲストティーチャー御自身が弱視者で、右目にわずかな視力があり、趣味の料理に取り組まれていると伺いました。子どもたちはゲストティーチャーから、日常生活をどのように送っているのか、そして、趣味の料理をどのように行っているのか、具体的に教えていただきました。その後、子どもたちは目の不自由な方の困り感を、疑似体験しました。その体験を通して、白色の中に明るい色を入れると見づらく、黒色の中に明るい色を入れると見やすことが実感できました。また、目の不自由な方との接し方や案内の仕方が教室内で実演され、「何か、お手伝いできることはありますか」と、声をかけることが目の不自由な方にとって最も安心できるコミュニケーションの取り方であると学びました。



＜案内の仕方が実演される＞

＜4年児童の感想＞わたしは、目の不自由な人を助けるときに「何か、お手伝いできることは、ありますか」と言えるようにしたいと思いました。目の不自由な人の見え方は、いろいろあるんだなと思いました。ちょっとした工夫でもバリアフリーなんだと思いました。点字を覚えるのはすごく大変だと思いました。盲学校がなかったら目の不自由な人は、すごく大変だと思いました。もし目の不自由な人がいたら、声をかけて目の不自由な人を助けたいと思います。

＊今年度も月1～2回、土曜日の午前中に本校の「サロンI」で、「伝統文化宝永こどもいけばな教室」が開催されています。参加している子どもたちは、素敵な時間を過ごしています。